

3 1.臨床検査科

1. 一般目標 (GIO)

臨床検査科の研修を通じて、超音波、心電図、血液、生化学、一般（尿）、細菌、輸血検査の各分野において、基本的知識および技術を習得する。

2. 具体的目標 (SB0 s)

- (1) 超音波検査について、原理、操作、結果を理解できる。
- (2) 心電図検査について、原理、操作、結果を理解できる。
- (3) 血液検査について、血算・血液像の結果を理解できる。
 - ・実施可能な検体量について学ぶ。
 - ・特殊な症例の場合に提出する検体について学ぶ。
(血小板凝集能のある症例は、通常血算に加えチトラ血算を提出する)
 - ・骨髓像について学ぶ。
 - ・夜間に出来る検査項目およびパニック値を学ぶ。
- (4) 免疫化学検査について、一般生化学（肝機能・腎機能・電解質・血糖等）免疫化学、ホルモン検査、薬物、血液ガスの結果について理解できる。
 - ・実施可能な検体量について学ぶ。
 - ・血液ガスの操作を学ぶ。
 - ・乳び、溶血、パニック値を学ぶ。
- (5) 一般について、尿一般・沈渣、髄液、胸水、腹水、関節液の取り扱いおよび結果を理解できる。
 - ・実施可能な検体量について学ぶ。
 - ・夜間・休日に提出された妊娠反応検査について学ぶ。
 - ・尿試験紙の使い方および結果について学ぶ。
- (6) 外注検査について、各項目における適応および結果を理解できる。
 - ・実施可能な検体量について学ぶ。
 - ・取り扱いの時間帯について学ぶ。（遺伝子検査、染色体検査等）
 - ・保険適応外の検査について学ぶ。
- (7) 細菌検査について、一般細菌から保健所に届け出のある感染症について理解できる。

薬剤耐性に係わる基本的な問題を理解し、その背景や対応策について学ぶ。

 - ・検体採取（特に血液培養、嫌気性菌）および検体量について学ぶ。
 - ・細菌検査の依頼（電子カルテ）について学ぶ。
 - ・迅速検査の取り扱い、検査法について学ぶ。
 - ・グラム染色の手技について学ぶ。
- (8) 輸血について、血液製剤の種類、血液型のダブルチェック（時間または場所を変えて2回採血、血液型は2回検査）を理解できる。
 - ・血液型判定、交差試験などの手技を学ぶ。
 - ・通常時、緊急時（緊急度Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）それぞれの払い出しについて学ぶ。
 - ・夜間休日における業務について学ぶ。
- (9) 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、清潔な身だしなみで患者に接する。

- (10) チーム医療の実践について、医療従事者をはじめ、患者や家族に係わる人々の役割を理解し連携を図る。
- (11) 医療安全について理解できる。
 - ・インシデント・アクシデント（検体の取り扱い、針刺し事故）、院内感染、災害時の対応などについて学ぶ。
- (12) 医療の質の向上のため、医療従事者と共に教え、学びあえる姿勢を学ぶ。

3. 方略

- (1) OJT (on the job training)
 - ・臨床検査科の業務は、すべてスタッフの指導の下に行う。
 - ・研修希望の部署には配慮する。
 - ・感染制御チームなど、職種横断的なチーム医療に参加する。
- (2) 研修会および学会に参加することが出来る。

4. 評価

- (1) 自己評価 : 検査および症例を記載し、EPOC2 に入力する。
- (2) 指導医による評価 : EPOC2 入力に対応して評価を行う。
- (3) 研修医による研修科の評価 : 研修プログラムを評価する。